

とっとう通信

2021年10月13日発行

223号

「とっとう通信」は
読んで「とっとう」。
いつも読んでいただき
ありがとうございます。

こんにちは！平川です。日に日に秋が深まってきてますが、お変わりなくお過ごしでしょうか。さて今回は、しょーもない話の最終回です。どうぞお付き合下さい。では今月もはりきっていきましよう。

あん頃のぼくらはアホやった4

小学五年生の時、私は福岡市へ引越す。自宅が海の近くだったこともあり、魚釣りに夢中になる。休みの日には必ず友達と行ってた。そのうち、新しい竿やリールが欲しくなる。私はアルバイトをしようとして、通学路の途中にあだ新聞販売店へ飛び込んだ。店主らしき人に「タリを配りたいです。雇って下さい」と言うとおう、明日から来い」と。今思えば、よくまあ小学生を簡単に雇ったなと思う。翌日から学校帰りに、タリ配達を始めた。70部ほど配って、一ヶ月で五千円（二日あたり二百円）をもらって、小中学生には十分だった。するとその事を知ったA君が自分も働きたいと言いつつ、しかしA君は塾に通っていたので、毎日とは出来ない。



そこで私は思いついた。店主にお願いして、配布部数を二倍の140部に増やしてもらい、私は毎日学校で、その日にタリを配ってくれる人を探して走り回った。そしてアルバイト代として百円を渡していた。我ながら、呆れてしまう。まったくする賢い子供である。数ヶ月後、その事が先生にばれて大目玉を食らう。しかし私にも言い分があつて、友達に頼られていないので、不配と言って、時々配達漏れをした。私はその都度、新聞を持ってその家へ行き、謝っていた。いわばクレーム処理係をしていた。もしあのまま続けたら、今頃、大きな派遣会社の社長になつていたかもしれない。（笑）それから私たちは、近場の釣りには飽きて、遠くへ行くようになる。これまでも危なくて、友達との集合時間が深夜の二時である。こんな時間から三人の小中学生が自転車を出かける。今ならPIAが大騒ぎだろう。トラックが飛ばしている国道を、よく事故が起きなかつたと思う。釣り

場に着いたら、必ず電話するのが母との約束だった。当時の事を聞くと、電話があるまで眠れず、生きた心地がしなかつたらしい。お昼ご飯には、タッパに白飯だけを詰めて持って行っていた。そして焚き火で海水を沸かし、レトルトカレーを食べていた。ある日のこと、K君がカレーを忘れた。おかすがないので「これ食べるか？」と、いきなり撒きエサのアミを白飯の上にのせた。アミとは、小さなエビの冷凍エサのこと。それをガツガツ食べ始めた。K君は「うあ、まずい」と言ったが、私は、イカの塩辛に見え、カレーに入れて食べてみた。やっぱりまずかった。ある日、糸島市の砂浜へエサの投げ釣りに行った時の話。私たち三人は、なかなか釣れず、釣れても小さなキスばかり。ところが10メートルほど横で釣っている大人は、大きなキスをバンバン釣っている。なんで、となりのおじさんばかり、大きなキスが釣れるのかい？「そりゃ、おじさんは大人やけん、遠くまで投げられるけど、ぼくらはその半分も投げきれらん。きつと大きなキスは、遠くにおるとよ」するとK君が「よっしゃ、



まかせとき。ちよと行ってくるわ」といきなりズボンを脱ぎ、パンツ二つになつて、エサがついた仕掛けを持ち、海の中に入ってしまった。なんと泳いで遠くの沖に、エサを置きに行つたのである。「かっちゃん、頑張るね」ところが20メートルほど泳ぐとUターンして戻つて来た。「痛くて…針がよく見ると足の親指に、釣り針がグサリと刺さっている。平泳ぎで蹴った瞬間に刺さつたらしい。よし、ぼくにまかせとき」私は道具箱から針はずしのラジペンを取り出し、もう一人がK君の足を押さえる。そして消毒のフモリで、なるはずもない海水を「クローロ」かけながら、針をぐりぐりと引っ張った。「痛くて」もう「ちよとやけん我慢し」ところが針には返しがあるので、簡単には取れない。散々こねくりまわしたあげく、「やっば取れん。病院行こか」ホッとしたK君の顔を今でも覚えている。（終）また何か思い出したら、パートを募集します。それではまた来月に…

発行／有限会社アサム
〒819-1127 福岡県糸島市有田中央 2-14-36
Tel: 092-321-4001 Fax: 092-321-4002
・専門学校&スクールサーチ : <http://www.asamnet.jp/>
・ブログ : <https://itorinri.com/>